

平成30年度北陸農政局農山漁村男女共同参画フォーラム概要

1 趣 旨

本フォーラムは、農山漁村における男女共同参画の実現を目指して経営・社会参画の優良な取組を行っている個人や団体を表彰し、その活動事例を広く紹介することにより、北陸地域における男女共同参画の一層の機運の醸成と、女性による農山漁村の活性化の取組を促進することを目的に開催するものです。

2 開催日時 平成30年11月30日(金) 13:30~16:00

3 開催場所 北陸農政局 1階 共用大会議室(金沢広坂合同庁舎)

4 主 催 農林水産省北陸農政局

5 参加者数 56名

6 内 容

13:30 開会

平成30年度北陸農政局男女共同参画優良事例表彰式

■表彰式では、北陸農政局長から4名、1団体へ北陸農政局長賞が授与されました。

- (1)開会の辞
- (2)受賞事例の紹介
- (3)北陸農政局長賞授与
- (4)北陸農政局長挨拶
- (5)閉式の辞



<北陸農政局長賞受賞者>

【写真】表彰状授与の様子(JA 根上加工部会代表 浜田加代子氏)

部門	受賞者名	所在地
経営参画・個人	山藤 万紀子(やまふじ まきこ)氏	富山県富山市
経営参画・個人	田川 由佳代(たがわ ゆかよ)氏	福井県あわら市
経営参画・団体	J A根上加工部会	石川県能美市
社会参画・個人	大堀 幸子(おおほり さちこ)氏	新潟上越市
社会参画・個人	森塚 美智子(もりつか みちこ)氏	福井県吉田郡永平寺町

14:00 受賞者記念撮影

14:15 休憩

14:30 活動事例発表

- (1)活動事例発表
- (2)質疑応答

16:00 閉会



【写真】北陸農政局長式辞



【写真】活動事例発表の様子



【写真】活動事例発表の様子(山藤氏)



【写真】活動事例発表の様子(田川氏)



【写真】活動事例発表の様子
(JA 根上加工部会 代表 浜田氏)

■活動事例発表では、スライドショーを使って、受賞者の方々が、農業に携わった経緯や苦勞したこと、現在の活動や今後の目標などについて発表されました。



【写真】活動事例発表の様子(大堀氏)



【写真】活動事例発表の様子(森塚氏)



【写真】質疑応答の様子

■質疑応答では、「性別や世代を越えた活動をするために大切なことは何か」という質問に対し、「男性だから、女性だからという考えではなく、お互いができることをして、できないことは補い合うことが大切」、「変だと思えることは声に出して伝えていくべき」という意見が出ました。

また、農業を職業にしようと考えている女性に向けて一言をお願いすると、「農業は楽しい」、「農業は、自分の努力ややり方次第で活躍できる職業なので頑張してほしい」という前向きな言葉をいただき、フォーラムをとおして様々なメッセージを発信されました。



【後方(左から)】荒井経営支援課長、瀧澤経営・事業支援部長、春日北陸農政局次長、平岩北陸農政局次長、三嶋参事官
【前方(左から)】山藤万紀子氏、田川由佳代氏、JA 根上加工部会代表 浜田加代子氏、奥田北陸農政局長、大堀幸子氏、森塚美智子氏

受賞者の活動事例紹介

経営参画部門（個人）

^{やまふじ} 山藤 ^{まきこ} 万紀子 氏（富山県富山市）

ぶどうの生産や観光農園、ワインの醸造・販売を行っている「ホーライサンワイナリー株式会社」の経理、企画運営を担当している。

昭和62年から、ぶどうの品質向上のため、雨除け栽培を導入したことを機に、雨天でもぶどう狩りやバーベキューを可能とした。さらに、ぶどうの下でワインと食事を楽しむ「収穫祭」の開催やカフェの開設により、夫や2人の娘夫婦とともに、年間3万人が訪れる農園に発展させている。女性ならではのアイデアで経営の多角化を進めており、県内における6次産業化の先進的な事例といえる。

また、ぶどう経営で新規就農を目指している青年や農業高校生の研修を受け入れ、栽培から加工・販売の実践までを実習させる等新規就農者の育成に尽力している。

^{たがわ} 田川 ^{ゆかよ} 由佳代 氏（福井県あわら市）

平成10年、夫婦で東京から夫の実家に帰郷し、農業に携わる。

人材を確保するため、平成20年に「株式会社 田川農産」を設立し、取締役就任した。旅館やホテルへ米の直接販売による新たな販路の拡大や、従業員が働きやすい環境をつくるため、労務管理や福利厚生を充実させる等経営改善を進めている。夫婦の真面目で丁寧な仕事ぶりが評価され、農地が集まり、平成26年には水稲や大麦等の栽培面積が100haを超える大規模経営となっている。現在も農地が集積しており、県内を代表する優良な経営体として、法人化を目指す農家の模範といえる。

また、育苗ハウスを活用したぶどうのアーチ栽培を始め、地元の子供達へ収穫体験を行っている。平成28年からは、あわら市の農業委員として遊休農地の解消や農地に関する相談、若手就農者へのサポートに積極的に取り組んでいる。

経営参画部門（団体）

^{ねあがり} J A 根上 ^{かこうぶかい} 加工部会 （石川県能美市）

朝市の余剰野菜を有効利用する目的で、平成11年に地元 J A 女性部内で加工グループを立ち上げた。平成14年に J A 根上加工部会に組織変更し、地元特産である、加賀丸いもの皮をむいた真空パックを開発、販売した。

部会員の孫の「白いご飯は嫌い」という発言がきっかけとなり、加賀丸いもや地物野菜を使用したおかずをハンバーガーのようにご飯で挟み込んだ商品「ごはんば〜が」を開発した。平成17年の発売以来、徐々に評判が広がり、市内の保育園のおやつや、小中学校の給食のメニューとなったこともあり、大人になってから購入する人も多い地元で愛されるヒット商品となっている。このような取組は、地域の農産物を使った女性による地元活性化の模範といえる。

社会参画部門（個人）

おおほり さちこ
大堀 幸子 氏（新潟県上越市）

平成14年、上越市で初めての女性農業委員に選出される。就任後、農業委員のPR、農業者年金の普及に努めるとともに、農村女性の声が常に施策に届くよう、農業委員が減る中で、女性の登用を強く提言し、複数名の女性農業委員の選出に貢献している。

平成15年からは、「平成18年度全国男女共同参画宣言都市サミットin上越」の成功に向けて、上越市男女共同参画地域推進委員として、地域の男女共同参画の実現に向けた勉強会や研修会を企画した。

また、新潟県農山漁村女性交流協議会会長として、会員に起業や経営参画の勉強会への参加を促し、具体的な起業化につなげている。このように、様々な場で農村女性の活躍を促す取組を主導している。

もりつか みちこ
森塚 美智子 氏（福井県吉田郡永平寺町）

平成15年、農村女性による、おはぎやかきもちを加工販売する「ハンドメイド風ふう」を立ち上げ、代表に就任した。地元の米や野菜を使用した伝承料理を取り入れた商品は評判が良く、売上げが順調に増え、平成17年に企業組合として法人化した。また、平成26年からは、福井県内の農村女性起業グループの会長として、販売会の開催や会員相互の情報交換を行う等ネットワークづくりを進めた。

平成27年、JA永平寺で初めての女性理事となる。JA農産物直売所「永平寺四季彩館れんげの里」において、新たに女性生産者・JA女性加工部コーナーの設置や大型量販店へのインショップ出店の企画運営に携わり、売上げを増やすとともに、農村女性の活躍・雇用の場の創出に尽力している。